

# 横小だより

新潟市立  
横越小学校発行  
R 3・11・10  
臨時号



Eメール e407yokogoshi@city-niigata.ed.jp

URL <http://www.e407yokogoshi.city-niigata.ed.jp/>

《シリーズ》

第4回



# Yokogoshi

校長

戸田 道治

昭和47年11月に出版された小杉小学校百周年記念誌に、「学校給食」という題で次の文章がありました。

## 学校給食

旧職員 伴 静

昭和35年9月、阿賀野川の堤外地に小杉小学校のグラウンドが完成した。その祝宴の席で、当時のPTA会長遠藤文男氏と総区長阿部美佐雄両氏から、学校給食をやれないかとの話があった。

横越村の学校ではどこもまだその事について考えておられないような頃だった。

みぞれまじりの11月、寒さにふるえながら冷たい弁当を食べることは昔から当たり前のことと観念しながらも、温かい一椀のみそ汁があったらとは、かねてからの私の夢でもあった。

しかし、どうして給食などできるだろう。どこで、誰が、いつ、何を、どのように調理すればよいのだろう。現状では出来るはずはないと思うが何もしないで降参するのも意気地がなさ過ぎる。

「給食ではないのですよ。ために6年生が調理実習をしてみるだけですよ。」

何度も念を押して11月の初め頃の一日、用務員室の湯沸かし釜で豚汁を煮た。味噌・野菜は持ち寄り、調理は6年1組の女子10名あまり、3・4時間目の作業で香ばしい香りが廊下にもれる。気配を察した1年生がのぞきに来て、キャツキャとはしゃぎながら走り去る。～ 中 略 ～

試してみたら出来てしまった。そこから出発してお汁給食が始められたのは、その月の28日からだった。

調理員は坂上さん、4集落から毎日1名ずつのお手伝いが来られた。野菜は家庭からの現物で納められた。～ 中 略 ～

給食に批判的らしい方が動員されて作業においてになって、昼食時の子どもたちの表情と温かいみそ汁の味で、考えを改めて帰られることもあったという… ～ 後 略 ～

\* 一部現代の表記になおしています。

当時の様子が目に浮かびます。これには解説は不要ですが、1点だけ。  
春に6年生に行った調査によると、「人の役に立つ人間になりたい」と答えた割合が、(ナント!)96.6%。先進的で献身的な考え方で支えてくださったこの地域のお人柄が、今も脈々と受け継がれていることがうかがえます。